

平商業高等学校創立 100 周年記念式典 福島県高等学校長協会長祝辞

平成 25 年 11 月 2 日（土） 13 時
アリオス いわき芸術文化交流館

ただいま御紹介いただきました、福島県高等学校長協会長をこの 4 月より務めております安積高等学校長の久保田範夫でございます。県高等学校長協会を代表致しまして、お祝いの言葉を申し述べます。

福島県立平商業高等学校の創立 100 周年を心からお祝い申し上げます。

（また、本日、感謝状・表彰状を受賞された皆様に、重ねてお祝い申し上げます。）

さらに、9 年ぶりの全日本吹奏楽コンクール、堂々の銀賞受賞、誠におめでとうございます。

本校の前身となりました平商業補習学校の創設は 100 年前の大正 2（1913）年に遡ります。一口に 100 年前と言いますが、日本が長寿社会になっていると言っても、高校生の皆さんから見れば四世代前の曾お祖父さん・曾お祖母さんの時代ですから、長い時の積み重ねに違いありません。

因みに、いわき地区高校 16 校の中で創立 100 年を超える学校は、磐城高校 117 年、磐城桜が丘高校 109 年、小名浜高校 106 年、そして平商業高校の 100 年の 4 校だけということになります。単独の商業科を持つ高校としては、福島商業 116 年、小高商業 103 年、若松商業 101 年、そして平商業高校の 100 年、郡山商業の 93 年と続きます。いずれにせよ、100 年の歴史、時の積み重ねは大変なことであります。

さて、私は、新採用の、雪が 3 メートルも積もる只見高校時代から現在まで、新たに赴任した学校では真っ先に校歌を覚えて歌えるように心がけてきました。それは、校歌の歌詞にはその学校の創立以来の校訓や精神、スピリットが込められていることが多いからでありますし、また、校歌を声高らかに歌うことによってその学校と生徒を好きになれるからであります。

平商業高校の校歌は、西条八十^{やそ}作詞、中山晋平作曲で昭和 6 年に定められたと聞いています。西条八十は、高校生の皆さんにはちょっとなじみが薄いかも知れませんが、童謡「かなりあ」や歌謡曲の「誰か故郷を想わざる」（作曲：古賀政男、歌唱：霧島昇、1940 年）、「青い山脈」（作曲：服部良一、歌唱：藤山一郎、1949 年）、などで有名ですし、作曲の中山晋平も、その名前は知らなくても童謡「シャボン

玉」「てるてる坊主」「証城寺の狸囃子」「背くらべ」を作り、そのメロディーに親しんだ人はたくさんいると思います。

さて、肝心の校歌ですが、一番では「太平洋、^あ ^か ^い ^{たけ} 関 伽 井 が 嶽、磐陽」と地元いわきに関する言葉で故郷いわきを意識させ、二番で「自主独立の学風の 古き伝統受け継ぎて 香りぞ高き新文化 さらに築かん学び舎に」とうたい、さらに三番で「責任と道義に根ざす自治の花 ～共に伸ばさん天賦の力」と受けて、平商業に学ぶ生徒達の使命と決意を歌い上げており、校訓の「自主独立」もここからとられたと思われます。或いは、自主独立の精神、校訓が先にあって、そこから校歌が生まれたのかも知れません。

自主独立は、「自分の力で、自分の意志で、自分の責任において物事を成していくこと」を表しますが、この言葉が示す人に頼らないという強い気概、自己決定の強い意志はとても大切だと思います。

ここで、ちょっと横道にそれますが、本校は商業高校ですので、「商業」「商い」にまつわる話をしたいと思います。「商い」は元々「あきなひ」「あきなふ」と書きましたが、日本で最も古い物語とされるかぐや姫の「竹取物語」（900年頃）にも出てくる大変古い言葉です。その語源については、「あき」は季節の秋で、秋の収穫物を交易、販売するという意味で、「なふ」は動詞にするための接尾語だとする説や、ほかに、「あき」は「飽きる、満足する」の意味で、商いは互いに利益を得るからだ、という説もあり、確かなことは分かりません。

また、「商業」に関する諺もたくさんあるのですが、その中に「^{あきんど} 商人と^{すぐ} 屏風は直にては立たぬ（or 曲らねば世に立たず）」があります。これは、一般的に屏風はまっすぐではうまく立たず、ジグザグに折って立てる必要があるように、商人も余りまっすぐでは駄目だ、という意味で使われる諺ですが、これは、正直がいけないということではなく、正しい理屈ばかりを押し通したり、自分の感情や情けだけに従って商いをしてはいけない、お客さんのニーズに柔軟に対応しなければならない、と解釈した方がよいとされています。

なぜ私が横道にそれて、このような話をしたかおわかりでしょうか。

先ほど自主独立の人に頼らないという強い気概、自己決定の強い意志はとても大切だという話をしたのですが、これは一步間違うと、独りよがり、独善的になってしまう危険性も孕んでいるということです。ですから、商いが元々、秋の農作物と交換する、それは貨幣との交換であったり海産物との交換であったり、いずれにしても自分だけが儲けるのではなく、お互いに利益を得るところから出発しているということ、そして、自分と相手との遣り取りの中で、相手のニーズをしっかり把握して柔軟に対応していくことを常に心がけることを忘れてはなりません。つまり、自主独立の気概を持ちながら、相手とのコミュニケーションの中での柔軟な対応が大切だということでもあります。まさに、校歌の3番に出てくる「共に伸ばさん天賦の力」なのです。

平商業高校は、時代の要請、求めによって創立以来変遷を重ねてきましたが、いわき地区における、商業科を単独で持つ高校として、常にいわきの商業教育を引っ張ってきた自負があるでしょうし、生徒の皆さんも、この学校で学んでいることにプライド・誇りを胸に日々励んでいることと思います。

自主独立の強い気概とプライドを持って、そして柔軟に対応しよう。これが本日、私から生徒の皆さんに贈りたいと考えた言葉です。「柔軟な対応」は、ある意味便利な言葉でよく聞く言葉ですが、具体的にはどういうことなのか。皆さんは将来、商業に関わる仕事を含めて、様々な職業に就くと思いますが、どのような仕事であれ、なかなか自分の思い通り、マニュアル通りにはいきません。想定外の状況が生まれた時、或いは思ってもいなかった反応を相手が示した時、**まずは実際の状況や相手の話を真摯に受け止めて、誠実に、心を込めて対応すること、**そこから柔軟なコミュニケーションが始まるのだと私は思います。

本校の卒業生は、今年度末には25,000名を超え、国内外の各界で活躍していると伺っていますが、自主独立の気概を持った先輩の方々や地域の皆さんの支えは大きな力になるはずです。そして、何よりも柔軟な対応を熟知している、そして面倒見のよい先生方が皆さんを導いてくれます。

平商業高校の生徒の皆さん、校歌にうたわれる**自主独立の気概**を胸に、相手とのコミュニケーションの中での柔軟な対応を常に心がけ、現状に満足することなく、自分の夢を見つけ、その夢に向かって、充実した高校生活を送ってください。

長くなりましたが、私からのお祝いの言葉といたします。

本日は、創立100周年、誠におめでとうございます。